

能登半島地震復興支援イベントの開催

能登半島地震の発生から半年が経ち、ちょうど半年の節目の日となる7月1日に、シンガポールのジャパン・クリエイティブ・センターにおいて、能登半島地震の復興支援イベントを開催いたしました。

ジャパン・クリエイティブ・センターは、両国政府の協力により、在シンガポール日本国大使館の一部として、平成21年に開設された施設であり、シンガポールにおける日本文化及び技術に関する情報発信の拠点として様々なイベントを実施しています。



ジャパン・クリエイティブ・センター

今回のイベントは大使館からの打診を受け、改めてシンガポールからの復興支援の機運を高めることや、石川県の魅力を深く知っていただくことを目的として開催し、当日はシンガポール政府のヘン・スイキャット副首相もご参加いただくなど、約60名の参加者で会場は満席となりました。

イベントの内容は、石川県の観光の魅力などを紹介した上で、地震による被害状況や復興に向けた取り組みなどを説明する前半のセッションと、県の代表的な産品の一つであるとともに地震での被害も大きかった日本酒にフォーカスを当て、酒蔵の被災状況の説明や日本酒のテイスティングなどを行う後半のセッションの2本立てで実施しました。

イベントの冒頭に、石川浩司駐シンガポール日本国特命全権大使よりご挨拶があり、「これまでのシンガポールからの支援に対して深い感謝の意を表するとともに、今後も継続して石川県に関心を持っていただきたい」と述べられました。

前半のセッションでは、初めに私が知事からのメッセージを代読し、「石川県は復興に向けて一丸となって取り組んでいる。シンガポールにはアンテナショップもあり、県産品を応援していただくことが復興に向けた大きな後押しとなるため、引き続きのご支援をお願いしたい」とお伝えしました。

その後の石川県に関するプレゼンでは、食・自然・伝統文化といった県の特色や様々な観光地の情報、県へのアクセス方法などの観光関連の情報を紹介するとともに、能登半島地震

に関する情報についても、被害状況の詳細や、発生当初と半年を経過した現在の状況の比較、国や県、各市町などによる復興支援の取り組みなどを細かく説明いたしました。



石川県のプレゼン

後半のセッションについては、株式会社福光屋の担当者にご講演いただき、お酒の種類や製造方法といった日本酒の基本的な情報に加え、能登の酒蔵の被害状況と、共同醸造などの酒造業界における被災酒蔵への支援の取り組みについて、ご紹介いただきました。後半セッションの最後には、伝統的工芸品の酒器を使って 3 種類のお酒のテイスティングも行い、参加者はそれぞれのお酒の解説を聞きながら、味の違いを楽しんでいらっしゃいました。

また会場には、被災した能登の酒蔵のお酒も含む県内 7 酒蔵のお酒や、漆や金箔を使った伝統的工芸品の酒器も展示いたしました。お酒に関してはイベント終了後に自由に試飲可能としたところ、参加者が展示スペースに殺到し、大変な賑わいとなりました。特に能登のお酒が人気で、「被災した酒蔵の貴重なお酒を飲むことができて大変ありがたかった。輸出を再開した際にはぜひ購入して応援したい。」といったコメントを頂くなど、お酒を味わいながら、被災した酒蔵に思いを寄せてくださる方々がたくさんいらっしゃいました。



お酒の試飲に殺到する参加者

その他にも、参加された方々にお話を伺うと、「シンガポールでは自然災害がほとんどないため、地震が起きた際の対応などについて非常に勉強になった」という意見が多かったです。避難所や仮設住宅の設置、炊き出しや入浴の支援、県外から大勢の業者、自治体、ボランティアの方々が来てくださることなど、日本では一般的に行われている震災後の対応も、彼らにとっては初めて知ることばかりだったようです。

地震が身近なものではないシンガポールの方々にとっては、その被害の深刻さや、復興への道のりが険しいものであることを、自然と理解することは難しいため、今回のイベントはそのことに対する理解を深めていただくための非常に良い機会になったのではないかと思います。今後シンガポールでの支援の輪がさらに広がっていくことを願いつつ、引き続き震災からの復興に少しでも貢献できるよう、努めていきたいと思っています。



ヘン・スイキャット副首相（中央）、石川大使（左から2番目）とともに